

日本館



外観

「循環」をコンセプトとし、国産杉のCLTを活用した円環状の構造で「いのちのりレー」を体現。板と板のあいだに設けた隙間は、展示空間の中と外をゆるやかにつなぐ役割を果たしている。



案内図

プラント、ファーム、ファクトリーの3つのエリアで構成され、ひとつの循環を表現。館内を一周することで、日本の美意識である循環を体感できる。各エリアには、タイプの異なるトイレがそれぞれ設置されている。



プラント・ファームエリア  
トイレ入口

バリアフリートイレを中心に、左側に女性トイレ、右側に男性トイレを配置。入口は、グレーブラックの壁に白を用いたピクトグラムで視認性を向上。日英表記を組み合わせたシンプルな表示とした。



プラント・ファームエリア  
バリアフリートイレ

直径1500mmの円が内接できるスペースを確保したバリアフリートイレには、当事者からの意見に基づき、オストメイト対応汚物流しや収納式多目的シートなど、さまざまな利用者に対応する設備を完備している。



プラント・ファームエリア  
女性トイレ  
洗面・スタイリング  
コーナー

ベッセル式洗面器をアクセントとした洗面コーナー。自動水栓と自動水石けん供給栓の組み合わせにより、非接触で衛生的に手洗いが可能。スタイリングコーナーを独立させ、洗面コーナーの混雑を軽減している。



プラント・ファームエリア  
女性トイレ  
大便器ブース

建物を構成するCLTの隙間を活用したコンパクトな大便器ブース。板の合間のガラスから差し込む光が空間をやさしく演出。構造上不要なCLTの一部を切り欠き、スペースを確保するなど細かな調整の末に実現した。



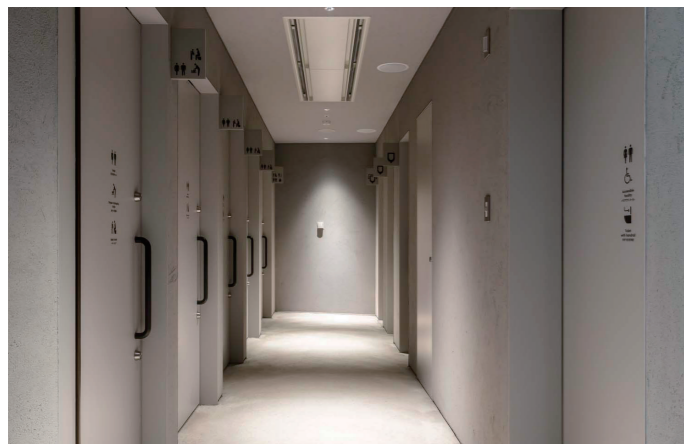
プラント・ファームエリア  
男性トイレ 洗面コーナー

女性トイレと同仕様のベッセル式洗面器をアクセントとした洗面コーナー。出入口付近には、床から天井までの大型鏡を設置し、全身の見繕いができるよう配慮している。



プラント・ファームエリア  
男性トイレ  
小便器・大便器コーナー

間接照明で温かみのある空間を演出した小便器コーナーには、停電時対応可能な発電タイプの小便器を採用。小便器の足元には、光触媒技術を活用したハイドロセラ・フロアPUを使用し、汚れやニオイの発生を抑えている。



ファクトリーエリア  
トイレ通路

中央に幅1500mmの通路を設置し、ゆとりある動線を確保。すべて個室とし、左側に大便器の個室、右側奥は小便器の個室を配置。手前には車いす使用者向けのバリアフリートイレを設けている。



ファクトリーエリア  
サイン

白の壁を基調とし、グレーブラックを用いたピクトグラムで視認性を向上。日英表記を組み合わせたシンプルな表示としている。さらに、遠くからでも各トイレの仕様がひと目でわかるよう、突き出しサインを採用している。



ファクトリーエリア  
男女共用トイレ①

ローシルエットのパブリック向けウォンシュレット一体形便器を採用し、空間をすっきりと演出。開口部を広く確保するため、一部のブースは折り戸を設置。各個室は床から天井まで壁で囲み、プライバシーに配慮している。



ファクトリーエリア  
男女共用トイレ②

機能分散するため、オストメイト対応ブースをバリアフリートイレとは別に設置。広めのスペースを確保し、着替えや立位での子どものおむつ替えにも対応できるようにフィッティングボードを完備している。

日本館



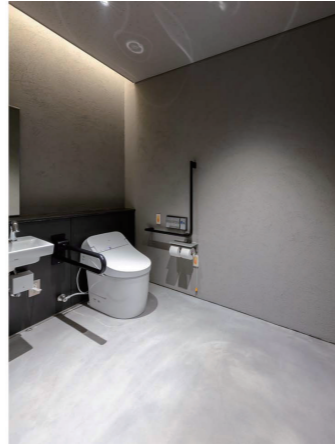
ファクトリーエリア  
小便器



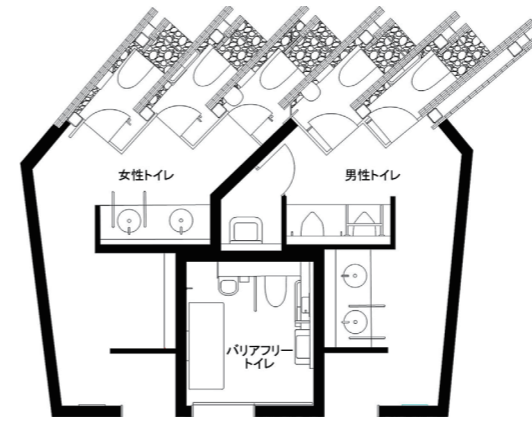
混雑対策として、個室型の小便器も3ヶ所設置。1ヶ所は手すり付きとしている。待機列がほかの個室の動線に干渉しないよう、掃除用具入れの場所を利用して、スペースを設けている。



ファクトリーエリア  
バリアフリートイレ



直径1500mmの円が内接できる広めの空間を確保。エリア内で機能分散を図ることで、車いす使用者の方が利用しやすい環境を整えている。全身鏡や先端が円筒状でゴム素材のフックなどを設置している。



プラント・ファームエリア  
トイレ図面

パビリオン内には、4ヶ所のトイレを設置。プラントエリア、ファームエリアには、男女別トイレとバリアフリートイレを設けている。



外周通路  
男女共用トイレ

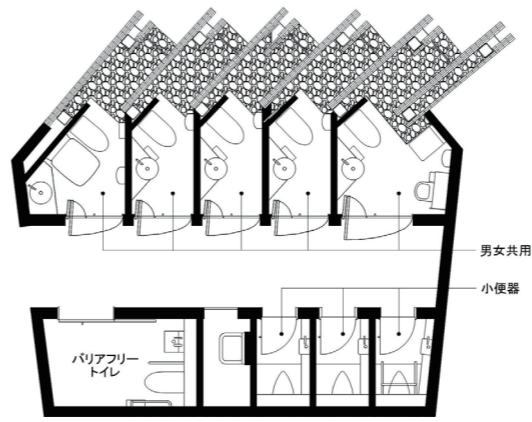


オストメイトまたはベビーベッドを設置して機能を分散。ベビーチェアは両方に完備し、ベビーカーのまま入室できる広めの空間。さらに、左右勝手違いの仕様とすることで、さまざまな利用者に配慮している。



外周通路  
バリアフリートイレ

車いすが360度回転できる、直径1800mmの円が内接できるスペースを確保したバリアフリートイレを2ヶ所設置。片マヒの方が利用しやすいよう、同じ設備を左右勝手違いに配置している。



ファクトリーエリア  
トイレ図面

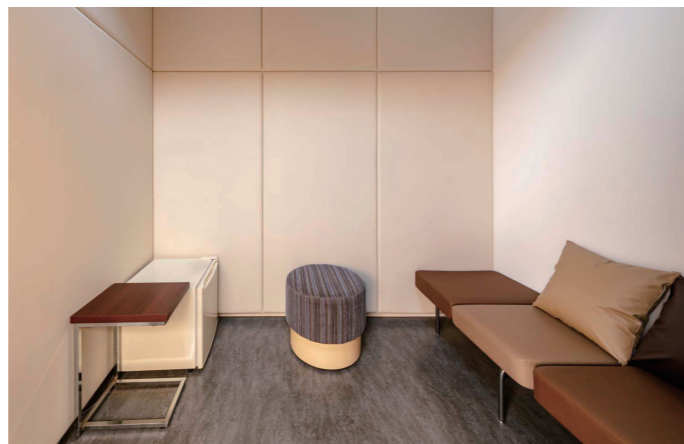
ファクトリーエリアのトイレは、個室型の男女共用トイレや小便器、バリアフリートイレを設けている。



外周通路  
ベビーケアルーム

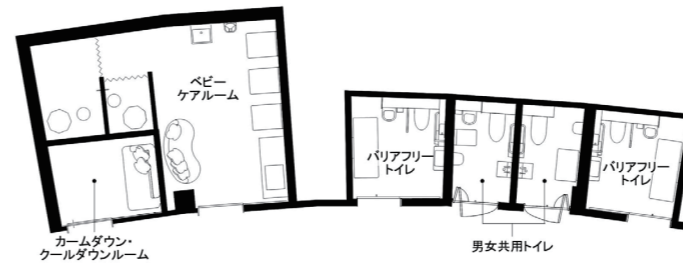


授乳やおむつ交換ができるベビーケアルームには、洗面器やベビーチェア、ソファなどを完備。2室ある授乳室のうち、1室は広く設計され、車いすやベビーカーにも対応。施設可能でプライバシーに配慮している。



外周通路  
カムダウン・クールダウンルーム

一時的な休憩が必要な方などのために、気持ちを落ち着けるスペースを設置。棚や椅子を備え、同行者も利用可能。壁に柔らかいクッション材を採用したウォーム系色調の優しい空間では、照明の調光を可能としている。



外周通路トイレ図面

外周通路のトイレは、多様な利用者に対応できる広めの男女共用トイレなどのほか、ベビーケアルームやカムダウン・クールダウンルームを設けている。

水まわりの特長

建物の特徴

5年に一度世界1ヶ所のみで実施される国際的イベント「登録博覧会」が大阪市内の夢洲で開催。ホスト国のパビリオンとして注目を集めている「日本館」は、「いのち、いのち、あいだに」をテーマとしたパビリオン。「循環」をコンセプトに、国産杉のCLTを活用した円環状の構造で「いのちのリレー」を体現している。CLTは解体後の再利用を前提とし、循環の一部を成す。また、だれにとっても快適な施設を目指し、「当事者参加型」のアプローチを導入。障がい者、高齢者、性的マイノリティなど、多様な背景を持つ方々が参加するワークショップを、設計・施工の各段階で開催。対話を重ねることで新たな気づきを得て、その意見を反映。数値では測れない、新しい形のユニバーサルデザインを提示している。

トイレの特長

館内を構成する3つのエリアおよび外周通路には、異なるタイプの設備を整え、多様な利用者に配慮したバランスの取れた配置を実現。特に個室型トイレ(男女共用)は、ブースごとに広さや設備を変え、バリアフリートイレと機能を分散させて混雑緩和を図っている。さらに、乳幼児連れや介護利用の方々でも快適に使用できる広めのトイレも用意。ファミリー向けの設備や発達障がいへの配慮が随所に生かされている。大便器は、快適性と節水効果を両立しすっきりとした空間を創出するパブリック向けウォシュレット一体形便器。ペッセル式洗面器は、高級感や個性を演出している。

建築概要

名称	日本館
所在地	大阪府大阪市此花区夢洲中1丁目地先 E10 日本館
施主	経済産業省(展示・バイオガスプラント) 国土交通省近畿地方整備局(建築本体)
建築設計	株式会社 日建設計
工事監理	株式会社 日建設計
建築施工	清水建設株式会社
竣工年月	2025年2月
敷地面積	約12,950㎡
建築面積	約8,200㎡
延床面積	約11,000㎡
構造・階数	鉄骨造、CLT耐震壁・地上2階

おもなTOTO使用機器

パブリック向けウォシュレット一体形便器:CES9251M
棚付二連紙巻器:YH700AD
自動洗浄小便器:UFS900WR
ハイドロセラ・フロアPU:AB690BR
洗面器:LS705
壁掛洗面器:LSG721B系
手洗器:L725
台付自動水栓:TLE26SL1A、TLE35S系
自動水石けん供給栓:TLK07S01JA
コンパクトバリアフリートイレバック:UADAZ21R*A1A**2B、 UADAZ21L*A1A**2B
コンパクトオストメイトバック:UAS8*R*B2NW
収納式多目的シート:EWC520AR系
ベビーシート:YKA25系
ベビーチェア:YKA15S
フィッティングボード:YKA41R